

会 議 録

会議名	小中学校適正規模検討委員会
日 時	平成 19 年 2 月 2 日 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分
場 所	新宮市役所第 2 委員会室
出席者	欠席委員（角口委員・清原委員・大石委員・松本委員） 大江教育長、楠本教育次長、清水総括指導主事、畑下指導主事、榎谷指導主事、瀧本、平見
概 要	<p>1．前回会議の報告（事務局）</p> <p>2．学校統廃合に伴うメリット・デメリットについて</p> <p>3．教育のパワーアップについて</p> <p>4．教育環境整備スケジュールの例示案について</p> <p>委員長 学校統廃合を行えば、必ず長所、短所は出てくる。デメリットは、どれだけ比重をもっているかだが無視できない。それをどうカバーできるか。高田は特認校で良いが、クラブ活動は別の学校でやるように考えればよい。小中学校の教育のあり方について、まず子供達のために何が大切か考えていただきたい。</p> <p>A 委員 教育環境整備について検討してきたが、教育のあり方についても本委員会で検討するのか。</p> <p>委員長 やはり本委員会で検討しないと、検討する場がない。</p> <p>A 委員 通学時間は防ぎきれないデメリットだ。法的には市内の学校は、距離的にクリアーできるのか。</p> <p>事務局 小学校は 4 k m 以内、中学校は 6 k m 以内で、旧市内では広角地区で 10 人くらいがバス利用している。</p> <p>B 委員 勝浦では小学生は自転車通学しており、ヘルメット係などもある。私も 5 年間、勝浦にいたが地域の教育度が高いのか、環境が厳しい中でもモラルは守られている。</p> <p>委員長 地域間の問題は気になるが、子どもたちはすぐ慣れる。</p> <p>B 委員 高田の子どもで遠い子は 2 . 6 k m を通っているが宿命のように思っている。</p> <p>C 委員 地域間の問題は出てくるとは思うが、統廃合した場合、学校名や校歌は新たにされた方が、吸収された感がなくてよいのではないか。保護者と相談し、反発の内容に配慮すべきだ。2 校の名をくっつけても、どちらが先に来るかもめる。</p> <p>B 委員 龍神の学校が合併し、新たに「さくら小学校」になった。中学校も 9 校から 3 校、そして 1 校に統合してきたが、合併条件として学校を新設するはずが改修になり残念がっていた。本市の場合も新設できるように願いたい。</p> <p>委員長 全国的には教育委員会の統廃合が人口 5 万人以下で進められている。教育再生会議では、そのようなことが提案されている。</p>

D委員 前回、小学校4校を2校に、中学校2校を1校にといことでまとまりかけていたが、子供達を育てる基本線を押えれば、互いのエゴは飛んでしまう。小学校2校、中学校2校という形で考えてもらいたい。一貫校は外し、連携でも良い。そうすれば先生が生徒一人ひとりにアドバイスできる環境になると思う。

委員長 教育ビジョンに基づくものが必要。教育の柱がないと住民に理解されない。新しい教育ビジョンに裏打ちされた整備、小中連携を密にすれば魅力的な学校になる。

1. 緑丘中横の土地を買収が可能か検討願いたい。

2. 小中連携だが、それぞれの組織をきちんとするため、各校に校長を置く。

3. 30人学級の実現、財政的に難しいかもしれないが提案すべきだ。

10年、20年先を考えると、中学校2校は1歩引いた形かもしれないが、中学校は生徒が多くなると、先生は生徒指導が大変だ。これまで小学校2校、中学校1校が目安だったが、小学校2校、中学校2校も視野に入れていきましょう。

E委員 良い条件でよい教育をお願いしたい。メリットがデメリットになることもある。中学校1校になれば適正規模以上になりデメリットになる。学校が荒れる。

基礎学力の低下、生活習慣・学習習慣の未定着が懸念され、中学校2校の方が先生も目が行き届く。

委員長 教科担任制で先生が減るかもしれない。生徒指導面で2校の方が良いのかもしれない。

F委員 地震の時に近くの中学生在が小学生を守るといったことがテレビ放送されていた。地震に備えてメリットも出てくる。

委員長 子どもたちは保護される、ケアされている。しかし、下の子の面倒を見ることにより成長する。4～5歳児が1～2歳児の面倒を見させると、しっかりしてきた実例もある。教育ビジョンをしっかり示した方が、親に理解してもらえる。

A委員 教育ビジョンでは確かに良いことが書かれているが、現実的には財源中心にならざるを得ないのではないか。

D委員 県ニュービジョンを見た時に、本当は県が出すべきで、我々は教育ビジョンを踏まえて適正規模を考えるべきだ。

B委員 きめ細やかな教育を考えればよい。私は現状のままの方が良いと思うが、少子化や経済性を考えれば致し方がない。

F委員 子どもは地域で守るもので「新宮市民は新宮っ子を守ります。育てます。」といった地域やビジョンを打ち出すことが、次の施策に通じる。この際、記載すべきだ。

委員長 法制度がついていけないが、小中一貫校を3校造る考えもある。将来、高校を4年生にした中高の8・4制がアメリカやドイツにある。

C委員 まず学校統合数を決めて、メリット、デメリットを肉付けしてはどうか。今の4校のままで金をかければ一番良いが、財源のことがあり今回の検討会になっている。総合計画のように時間をかけてはどうか。

委員長 委員長の進行がまずくて申し訳ないが、想定される色々な問題を全て出し切らないと、市民から差し戻される場合がある。期日や財源的な問題もある。中学校1校とした場合のメリットとしては、生徒数が増え切磋琢磨し人間味が豊かになる。クラス替えが可能。運動会なども盛り上がる。クラブ活動も活発化する。

D委員 まず学習教育を優先して考え、運動会は合同で行えばよいのではないか。

F委員 新宮中学の緑丘キャンパス、城南キャンパスといった形になればいい。

A委員 日本にはチョイスがない。義務教育だから画一的で良いというのは駄目だ。選択できるような仕組みがあった方が良い。

B委員 今、風邪が流行していて、子どもを帰宅させようにも、共働きが多く親と連絡がつかない。校区外通学も多く、50人くらいいる。

事務局 校区外申請は、今チョイスできる。弾力化している。申請が出されれば、祖父の家に通学している場合も多い。小学生の場合は、できるだけ家から学校が近い方が良い。

委員長 教育ビジョンや小中学校のバランスから考えれば、中学校2校、小学校2校の方が良い。a案は緑丘中の近くに用地を買収し、小学校を新設。それが不可能な場合は、千穂小学校を新設。また、城南中を新設し、王子小学校を改修する。(中学校2校、小学校2校)

b案は城南中を緑丘中に統合し大規模改修、千穂小学校を新設。蓬莱・王子小学校を城南中跡地に新設。(中学校1校、小学校2校)

A委員 今回の統廃合で国道を横断する子どもが増えるので、通学の安全性も検討してもらいたい。

D委員 それは今も同じで、相筋地区から丹鶴小に通う場合も、鴻田・広角から千穂小学校に通う場合も国道を横断している。

委員長 中学の多感な時期には、現段階では2校の方が良いかもしれない。

C委員 光洋中学校で、学校運営協議会に望むことを過日生徒にアンケートしたら、「安心して通える学校」という要望が一番多かった。

B委員 通学路の見直しや校区の境界を調整区域にした方が良い。

委員長 より安全な通学路の見直しを明記すべき。通学区域の再調整、調整区域の設定を明記して下さい。また、地域総合型クラブ活動も検討し、熊野川、高田、三佐木地区のことも明記して下さい。次回は、本日欠席されている委員に今回の案を提示し、意見を頂きたいと思います。

(16:30終了)